

# 2026年度 神戸薬科大学大学院薬学研究科薬学専攻 博士課程学生募集要項〔一般・社会人入学試験〕

## 1. アドミッションポリシー

- 神戸薬科大学の理念を理解し、大学院薬学専攻博士課程の人材養成の目的に応えるような次のような人物の入学を希望します。
- 医療人としての倫理性を備え、臨床薬学業務を担う熱意を持つとともに、確かで高度な専門知識に裏づけられた技能を持つことに意欲の高い人物
  - チーム医療の現場において薬剤師として活躍できる人物
  - 創薬・育薬を担う熱意を持つとともに、人間性豊かで医薬品開発などの国際的舞台で活躍を目指す意欲の高い人物

## 2. 募集人員；3名

推薦入学試験、神戸大学・神戸薬科大学薬剤師レジデント（研究志向型）を含む

## 3. 募集講座（裏面参照）

専攻	募集講座（研究分野）			
薬学専攻	薬化学	医薬細胞生物学	薬品化学	生命有機化学
	薬品物理化学	機能性分子化学	生命分析化学	衛生化学
	微生物化学	生化学	疾病予防学	薬剤学
	薬理学	製剤学	臨床薬学	医療薬学

## 4. 出願資格

- 次のいずれかの資格を有する者であり、かつ、入学後、たばこを吸わないことを確約できる者とする。
- 6年制課程の薬学部、医学部、歯学部、獣医学部を卒業した者（2026年3月卒業見込者を含む）
  - 修士の学位を有する者（修了見込者を含む）
  - 外国において、学校教育における18年以上の教育を受けた者
  - 大学卒業後実務経験がおおよそ2年以上あり、且つ、本学大学院において(1)と同等の学力があると認めた者
  - 本学大学院において、(1)と同等の学力があると認めた者
- なお、出願資格の(4)(5)にて出願する者は、出願資格審査を行うため、必ず2月6日（金）までに入試広報課へ問い合わせの上、下記の書類を提出すること。（認定審査の結果は、2月13日（金）までに本人へ通知する）
- 出願資格認定審査申請書（本学所定の用紙）
  - 卒業証明書
  - 研究業績一覧（公表論文等があれば、その別刷又はコピーを添付）及びその概要
  - 研究計画書

## 5. 出願期間

2026年2月13日（金）～2月20日（金）〔受付時間；土曜・日曜・祝日を除く平日の9時～17時〕〔郵送の場合は書留便にて締切日必着〕

## 6. 出願手続

- 入学志望者は、下記の書類等を入試広報課に提出すること。
- 入学願書：本学所定の用紙
  - 受験票：本学所定の用紙
  - 調査書：又は成績証明書。出身大学において作成厳封したもの。
  - 卒業（見込）証明書：又は修士課程修了（見込）証明書。出身大学において作成したもの。
  - 卒業研究論文：又は修士論文（本学学生は、卒業研究発表会で使用したスライド（A4用紙・配布資料（6スライド／ページ）形式）を提出すること）。1部、写しでよい。  
なお、学会誌等に発表した参考文献がある場合には、これを添付すること。
  - 研究報告要旨：卒業研究論文又は修士論文に相当する研究報告要旨をA4用紙2枚以内にまとめて提出すること。  
（本学学生は、「卒業研究」発表要旨に補足説明や図表を加える等してA4用紙2枚にしたものを提出すること）
  - 受入承諾書：本学所定の用紙
  - 写真：願書受付日前3か月以内に撮影したものを願書に貼り付けること（脱帽・上半身・正面・縦4cm×横3cm）。
  - 受験票送付用返信封筒：本学所定の封筒に宛先を明記（切手460円分（簡易書留料を含む）を貼り付けること。ただし、受験票を入試広報課窓口で受取る場合は切手不要）。
  - 入学検定料：20,000円を納入すること（神戸薬科大学に直接納入、又は入試広報課宛て現金書留にて送付）  
（ただし、本学卒業（見込）者及び本学大学院修士課程修了者は、入学検定料を免除する）。

なお、出願資格(4)で受験を希望する者は、下記の(11)及び(12)を提出すること。

- 志望理由書：本学所定の用紙
- 実務実績書：本学所定の用紙

入学後、職業を有しその職務を遂行する者は、下記の(13)を提出すること。

- 就学承認書：本学所定の用紙

## 7. 試験日・試験時間・試験科目・試験実施場所

試験日	試験時間	試験科目	試験実施場所
2026年2月28日（土）	11時～12時	英語 ※一般的な英和及び和英辞典に限り持込みを許可する（ただし電子辞書は不可）	神戸薬科大学
	13時～	卒業研究論文又は修士論文、研究報告要旨を中心とした口述発表を行う。 ※発表10分・質疑応答10分とする（PowerPoint・OHP等を使用してもよい）。	

## 8. 合格者発表

2026年3月13日（金） 神戸薬科大学において合否を発表、通知する。

## 9. 入学手続

入学を許可された者は、指定期日内に保証人を定めて誓約書を提出しなければならない。  
指定期日内に手続きを履行しないときは、入学許可を取り消す。  
なお、入学後、職業を有しその職務を遂行する者は、入学手続きに際し保証人を定める必要はない。

## 10. 学費

入学を許可された者は、指定期日内に次の学費等を納めなければならない。  
指定期日内に学費等を納めないときは、入学許可を取り消す。

- |             |          |  |
|-------------|----------|--|
| (1) 入学金     | 200,000円 | ただし、本学学部卒業（見込）者及び本学大学院修士課程修了者は、<br>入学金を半額免除する。 |
| (2) 授業料 前期分 | 300,000円 |  |
| 後期分         | 300,000円 |  |

入学手続時最少納入額		
入学金		200,000円
授業料	前期分	300,000円
合計		500,000円

## 11. 入学辞退

入学手続きを行った者が、何らかの事由で入学を辞退する場合の申出期限は、2026年3月31日（火）17時までとする（締切日必着）。  
入学を辞退する場合は、書面による「入学辞退届（本人・親権者の署名と捺印）」に「入学許可書」を添えて大学へ申し出ること。  
2026年3月31日（火）17時までに辞退の申し出があった者に限り、授業料前期分を返還する。なお、入学金については返還しない。

## 12. 奨学金等

- 神戸薬科大学大学院奨学生規程による奨学生制度（授業料相当額を給付）※
- 日本学生支援機構大学院奨学生（貸与）
- 神戸薬科大学リサーチ・アシスタント規程によるリサーチ・アシスタント制度（ただし、入学後、職業を有しその職務を遂行する者は除く）  
※神戸薬科大学学部卒業生対象

## 13. 災害補償制度

- 財団法人日本国際教育支援協会の学生教育研究災害傷害保険に加入している（学部・大学院生全員）。保険料は、大学が全額負担している。
- 事故・災害に備えて、1日24時間を総合的に補償する学生総合共済がある（任意加入方式）。

## 14. 注意事項

- 応募を検討する者は、出願資格を事前に確認する必要があるため、出願前に必ず、入試広報課まで問い合わせること。
- 出願書類は返還しない。
- 提出書類に虚偽の記載があった場合は、入学許可を取り消す。

出願等に関する問い合わせ先；神戸薬科大学 入試広報課 〒658-8558 神戸市東灘区本山北町4-19-1  
電話 078-441-7691（直通）

\*大学院の詳細い内容につきましては本学ホームページをご覧ください。



大学院進学情報サイト



# 神戸薬科大学大学院薬学研究科の研究分野

## 薬学専攻

### 薬化学講座

奥田 健介 教授

低分子有機化合物を用いて生命現象を解明することは、創薬研究に直結します。また、生物活性を持つ新規有用物質の探索を行うことも、新薬開発にとっては重要な方途です。このような観点のもと、「病態・生命機能解明のための機能性分子の創製」を介した創薬化学・ケミカルバイオロジーを指向した研究を、本講座では行っています。

### 医薬細胞生物学講座

土反 伸和 教授

植物の有用二次代謝産物の安定供給を目指し、それら産物の植物細胞での生合成・蓄積の仕組みを解明するとともに、合成生物学への応用研究を行っています。また、生薬などのヒト細胞への作用の仕組みについて、動物細胞を用いて研究しています。

### 薬品化学講座

上田 昌史 教授      武田 紀彦 准教授

合成医薬品の重要性から、本講座では医薬品の創製を目標とした有機合成化学の研究を行っています。医薬品のリード化合物になり得る強力な生物活性を有する新規化合物の合成、および新規化合物の合成に必要な新規反応の開発研究を行っています。

### 生命有機化学講座

波多野 学 教授      都出 千里 准教授  
山田 健 准教授

触媒の精密有機合成法に基づき、生命現象を解明するための機能性物質や工業的に付加価値の高い光学活性化合物などを創製しています。革新的な分子触媒の開発とバイオミメティックな合成手法を両輪とする環境低負荷で効率の高い革新的な創薬プロセス化学を開拓しています。

### 薬品物理化学講座

向 高弘 教授      佐野 紘平 准教授

物理化学的手法、放射化学的手法、光量子学的手法などを駆使して、がんや動脈硬化等の病態に関与する分子の発現や挙動を体外から可視化するための分子イメージングプローブの開発を行うとともに、それらを標的とする治療薬の創薬研究を行っています。

### 機能性分子化学講座

田中 将史 教授

タンパク質や脂質といった生体分子の構造・物性・相互作用を理解することによって、その機能発現メカニズムを解明する生物物理化学的研究に取り組んでいます。さらには、それらの構造や機能を模倣した新たな機能性材料の創製や特性評価も行っています。

### 生命分析化学講座

神谷 由紀子 教授      大山 浩之 准教授

核酸・タンパク質は生命活動を司る重要な分子です。生命分析化学研究室では、生体分子の構造や分子認識能の理解、また、生体分子の機能を凌駕する「人工」分子の開発、を通じて、生命科学研究の発展、核酸医薬品等の創薬、高感度分析法の開発を目標に研究を行っています。

### 衛生化学講座

長谷川 潤 教授

衛生化学はヒトの健康を護る身体の恒常性維持機構を生化学的に明らかにし、健康維持の新しい手法を開発することを目的とした学問です。本講座では、特に脳（神経系）、胸腺・脾臓（免疫系）、子宮・胎盤（生殖器系）に注目して、様々な生体ストレスに対してそれぞれの組織がどのように応答するのかを明らかにする研究を行っています。

### 微生物化学講座

小西 守周 教授      中山 喜明 准教授

外来の生物種や異物を排除するために存在する免疫システムは、非常に繊細かつ複雑に制御されています。この免疫システムのメカニズムを明らかにする基礎研究、あるいは有用微生物構成成分を用いた免疫療法に関する研究を行っています。

### 生化学講座

北川 裕之 教授      灘中 里美 准教授

遺伝病、がん、アルツハイマー、リウマチ、感染症などの発症に糖鎖の構造や代謝の異常が関与します。糖鎖の異常に関わる遺伝子や酵素を分子、細胞、個体レベルで総合的に研究し、病因解明、診断法の開発、糖鎖による創薬と治療法の開発を目標に活発に研究しています。

### 疾病予防学講座

田中 佐智子 教授      佐藤 敦 准教授

本講座では、疾病の発症または重症化に関連する医学的課題を解決することを目的として、人を対象とした疫学研究・薬剤疫学研究に取り組んでいます。健康教育・社会的施策の立案を通じた公衆衛生的課題の検討や、リアルワールドデータを用いた医薬品評価を主に行っています。

### 薬剤学講座

大河原 賢一 教授      河野 裕允 准教授

リポソームや細胞外小胞などのナノ粒子を用いた薬物の体内動態制御法の開発に関する研究を行っています。また、刺激応答性の付与や抗体修飾といったナノ粒子の高機能化にも取り組んでおり、それらを利用したがんや免疫系疾患の新規治療法の開発を目指しています。

### 薬理学講座

小山 豊 教授<sup>※</sup>

薬理学講座では、急性期脳損傷や神経変性疾患などの中枢神経系の疾患における神経傷害の発生機序を、培養細胞や動物モデルを用いて解析しています。これら基礎研究より、神経疾患の新たな治療標的となり得る分子を見出すことを目指しています。

### 製剤学講座

坂根 稔康 教授<sup>※</sup>      古林 呂之 准教授

製剤学研究室では「医薬品の有効性と安全性を担保・向上させるテクノロジーと製剤の開発」をスローガンに、研究テーマとして、薬物の生体膜透過、経粘膜吸収、経皮吸収、鼻腔内投与による脳および頸部リンパ節へのデリバリー等に関する研究を行っています。これらの研究を基本に、数社の企業との共同・受託研究や薬局と連携したリバーストランスレーショナル研究を積極的行っています。

### 臨床薬学講座

江本 憲昭 教授<sup>※</sup>

循環器疾患を対象としたトランスレーショナルリサーチを行っています。特に血管生物学を中心にして、その成果が臨床医薬学に直結できる生命科学研究を目指しています。

### 医療薬学講座

力武 良行 教授      佐々木直人 准教授

認知症、心疾患、動脈硬化、がんを対象に、発症・進展のメカニズムの解明や、効率的な診断・治療法の開発に資する基礎的研究を行っています。また、医療現場における薬物治療に関する臨床薬学研究も行っています。

\* 各分野等の研究内容は、2025年10月1日現在のものである。

※…在学期間中及び在学期間前に退職（予定）となる教員（在学期間：2026年4月～2030年3月）  
2027年3月末退職：江本 憲昭 教授（臨床薬学）、坂根 稔康 教授（製剤学）、小山 豊 教授（薬理学）  
2029年3月末退職：北川 裕之 教授（生化学講座）